

鼻咽腔からSaffold cardiovirusが 検出された小児の臨床症状

山辺こどもクリニック

板垣 勉

山形大学医学部 感染症学講座

松寄 葉子

山形県衛生研究所 微生物部

池田 辰也、青木 洋子、安孫子千恵子、水田 克巳

国立感染症研究所 ウイルス第3部

野田 雅博

国立感染症研究所 感染症情報センター

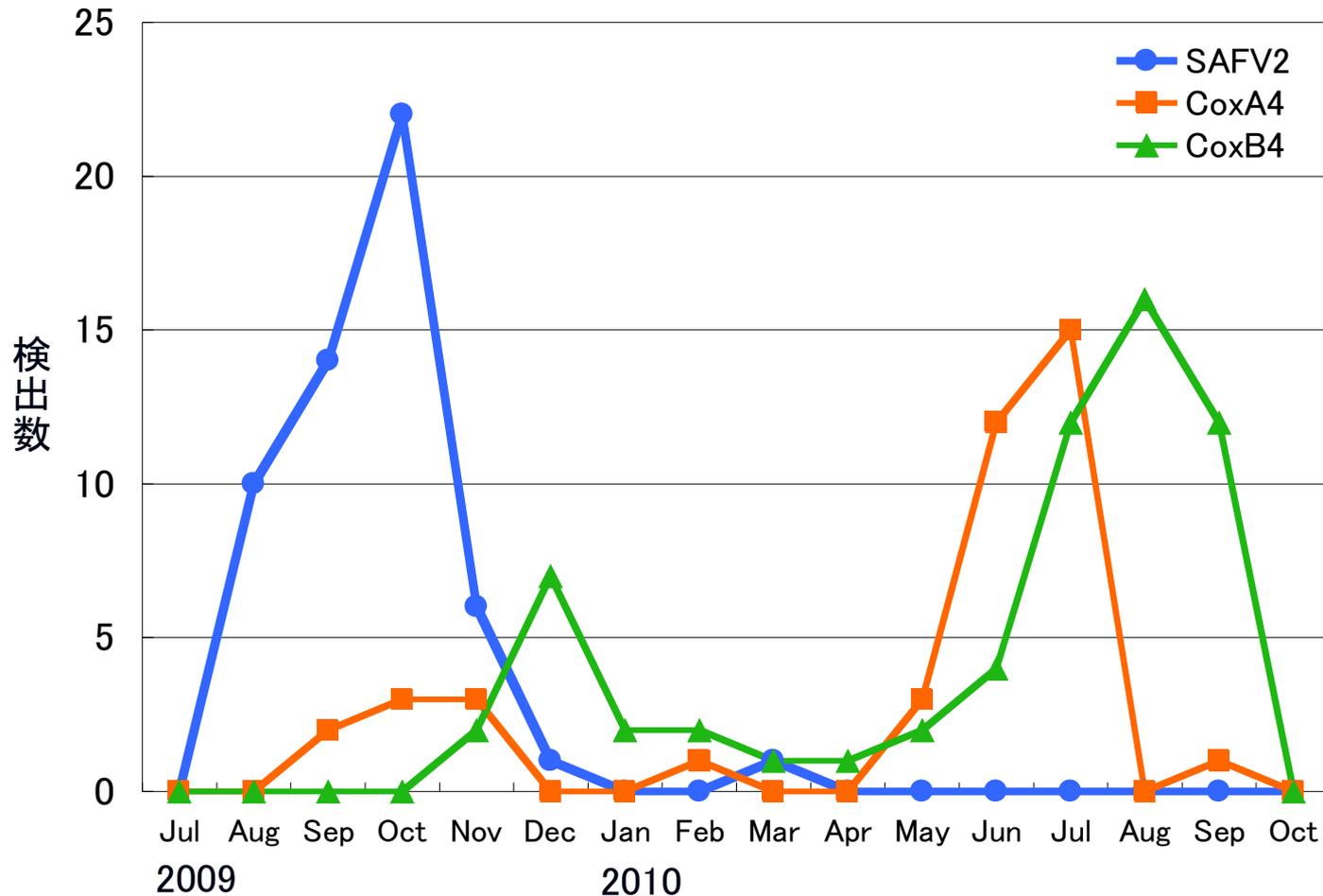
木村 一博

対象と方法

2009年7月から2010年10月までに山辺こどもクリニックを気道感染症状で受診した患者さんから、承諾を得て採取した咽頭拭い液(含吸引液)1525検体を用いてRT-PCR法でSaffold cardivirus(SAFV)の検出を行い、同時に96穴マイクロプレートを用いた細胞培養法で一般ウイルスを分離した。

その結果、SAFV genotype2 (SAFV2)を54例の小児で検出し、混合感染例・川崎病などを除外した35症例でSAFVの臨床症状を検討した。その際、同じピコルナウイルス科に属するコクサッキーウイルスA4、B4との比較を行った。

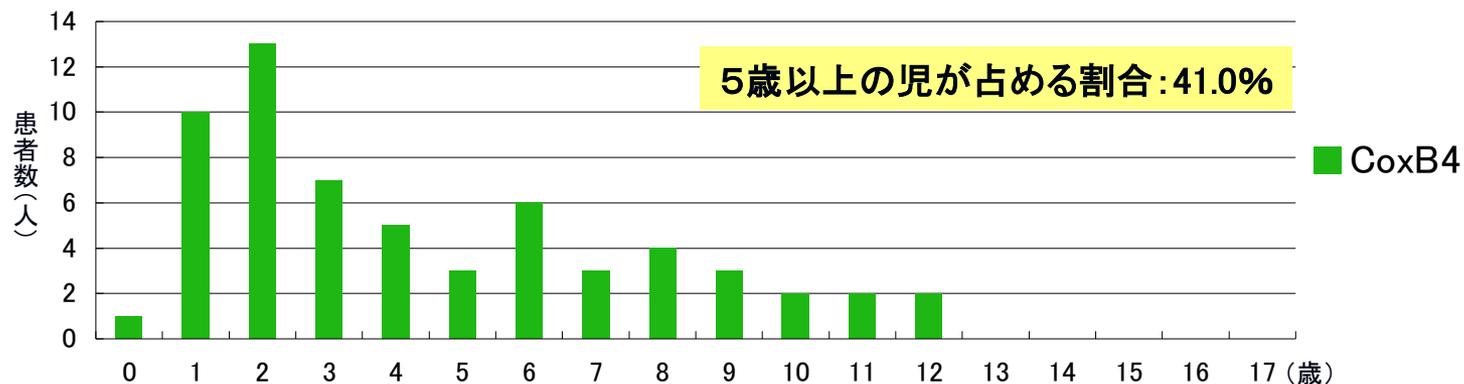
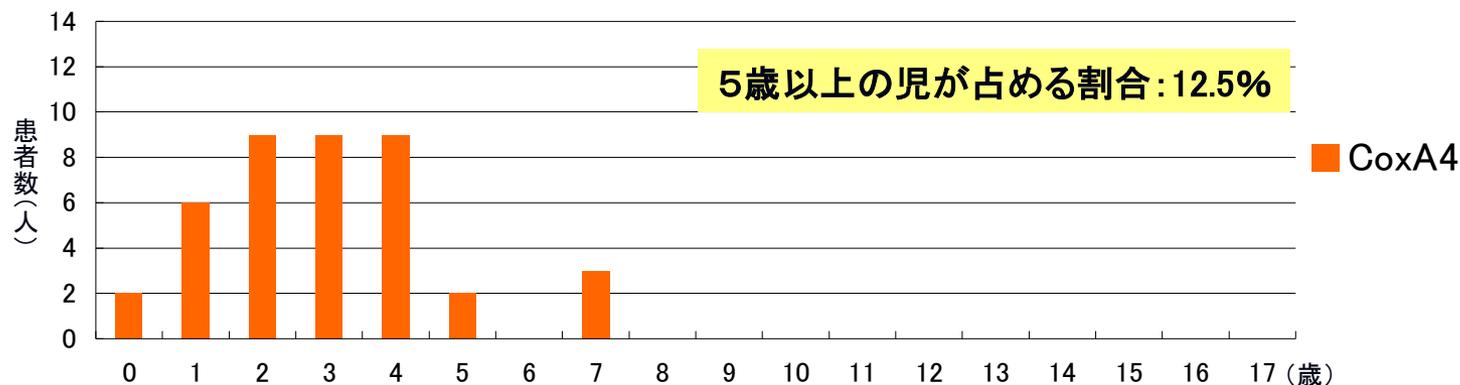
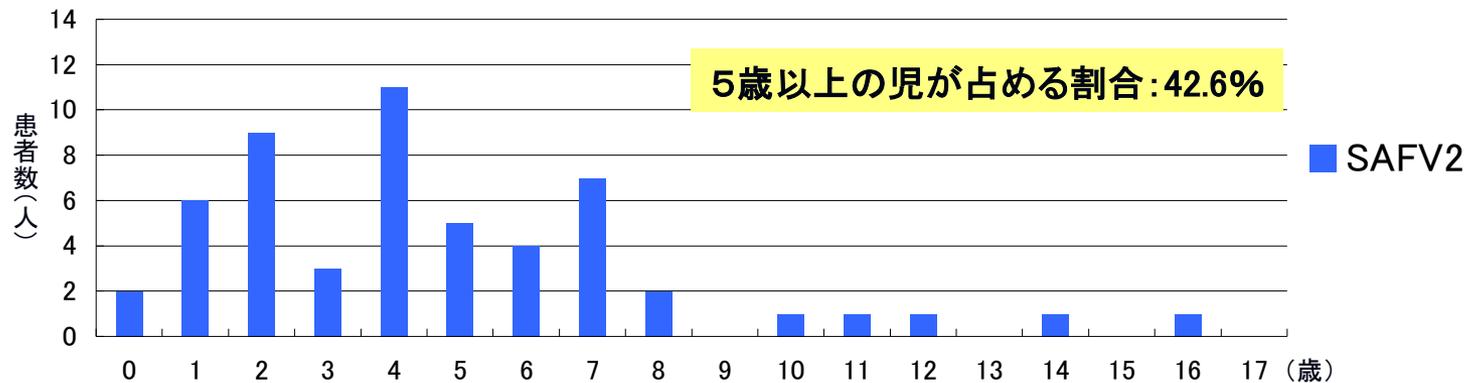
SAFV2とコクサッキーA4,B4の月別検出数



検出率
(総検体数1525)

SAFV2: 54例 / 1525 (3.5%)
 CoxA4: 40例 / 1525 (2.6%)
 CoxB4: 61例 / 1525 (4.0%)

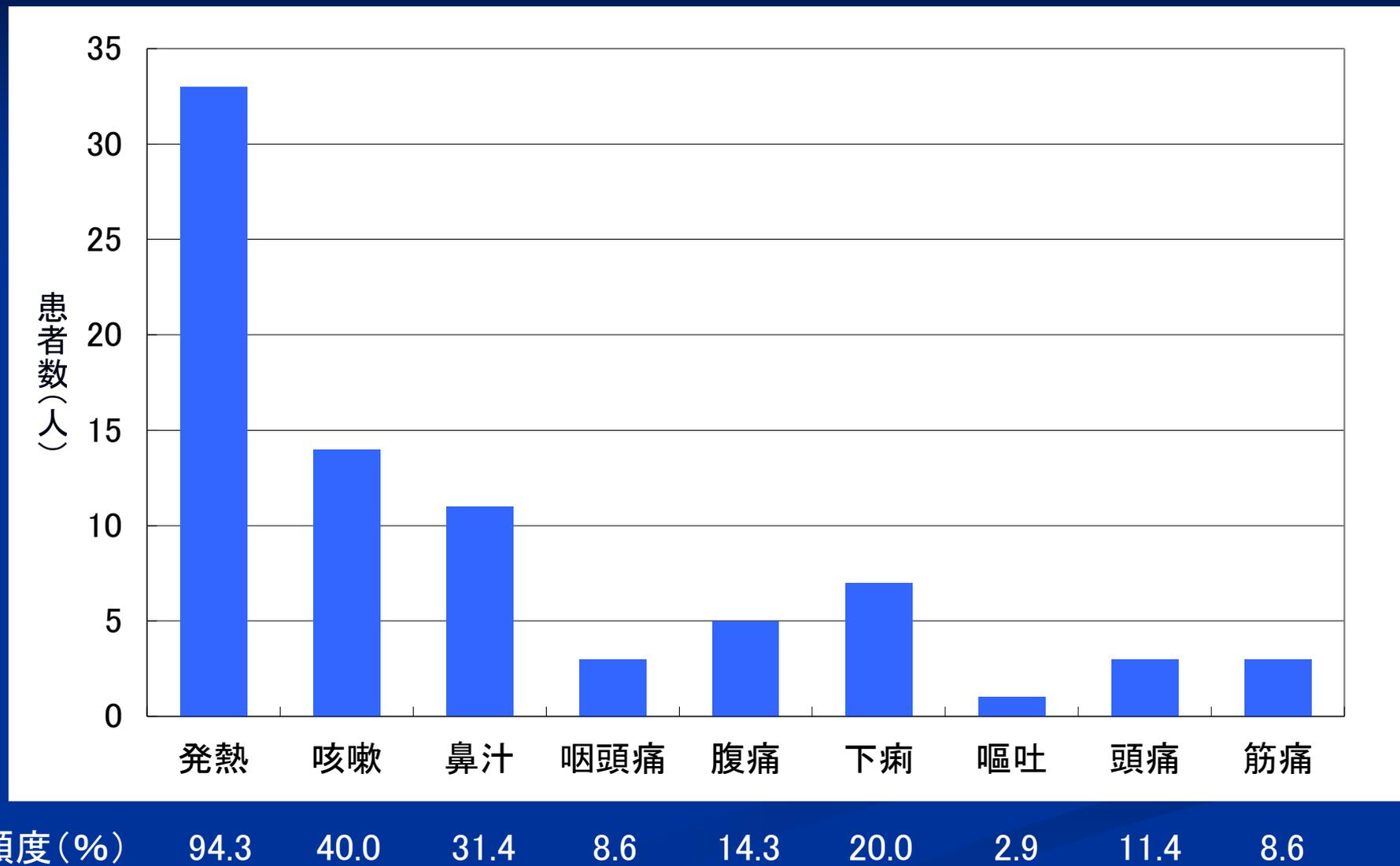
SAFV2、CoxA4、CoxB4の年齢分布



SAFV2、CoxA4、CoxB4の年齢分布

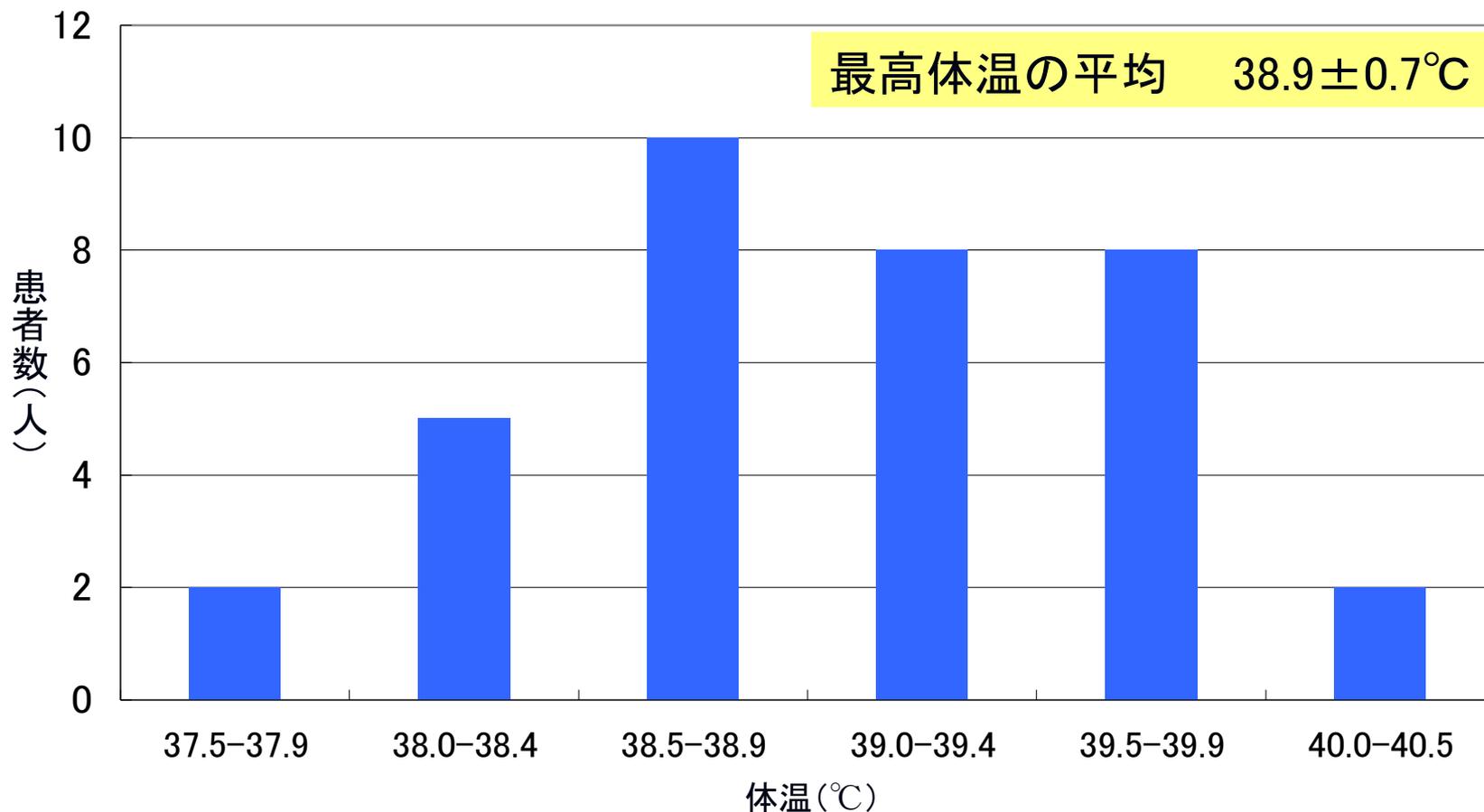
年齢 グループ (歳)	総検体数	陽性になった児の数(%)		
		SAFV2	CoxA4	CoxB4
0-1	472	8 (1.7)	8 (1.7)	11 (2.3)
2-4	454	23 (5.1)	27 (5.9)	25 (5.5)
5-11	469	20 (4.3)	5 (1.1)	23 (4.9)
12-17	130	3 (2.3)	0	2 (1.5)
Total	1525	54 (3.5)	40 (2.6)	61 (4.0)

SAFV2 35例の症状



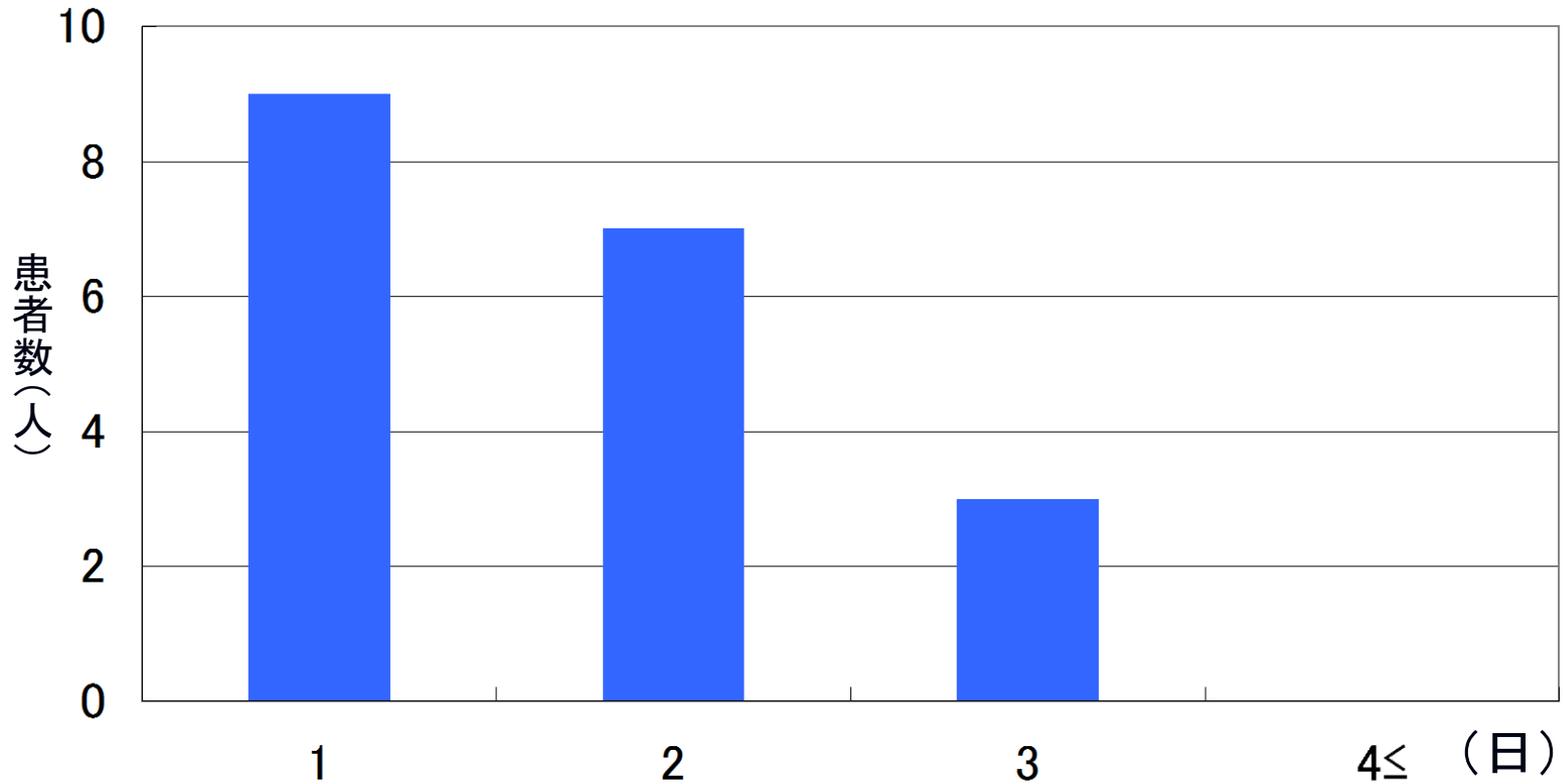
SAFV2 35例の最高体温

最高体温の平均 $38.9 \pm 0.7^{\circ}\text{C}$



頻度 5.7% 14.3% 28.6% 22.9% 22.9% 5.7%

SAFV2 19例の有熱日数

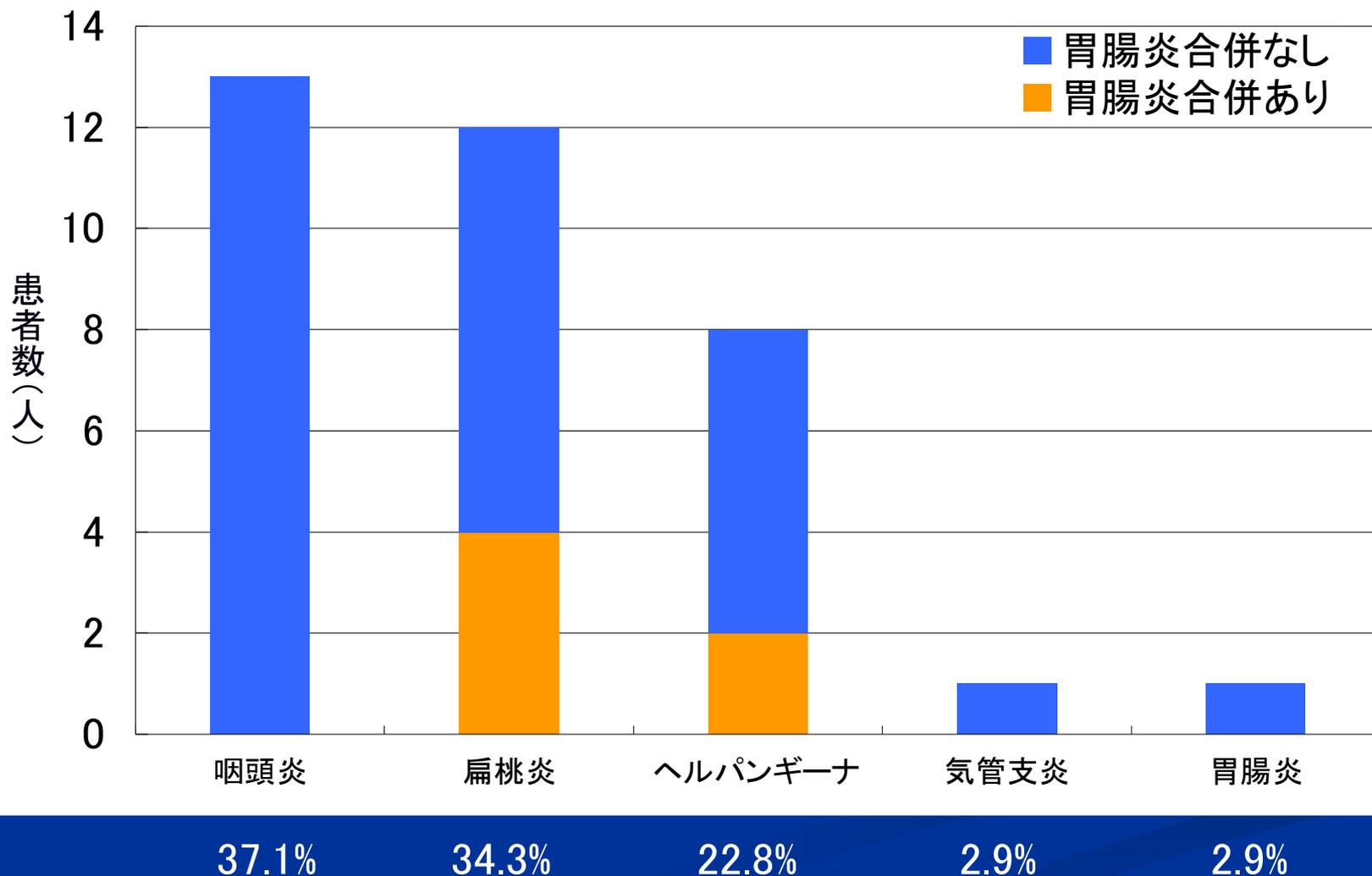


平均有熱日数 1.7 ± 0.7 日

SAFV2 7例の検査所見

Case	A	B	C	D	E	F	G
Age	3	2	12	10	7	7	16
① WBC	11000	15600	8400	11500	14300		16600
① %Gra	78.0	84.8	84.1	81.1	76.0		92.2
① CRP	1.1	2.3	1.1	1.6	0.6		1.1
② WBC	10300	18200				9000	17900
② %Gra	69.0	67.7				80.0	88.8
② CRP	11.4	11.2				7.0	7.8
③ WBC	5500						11800
③ %Gra	42.5						81.4
③ CRP	5.1						5.9
有熱日数	2	2	1	1	2	1	2
抗菌薬	+	+	-	+	+	+	+

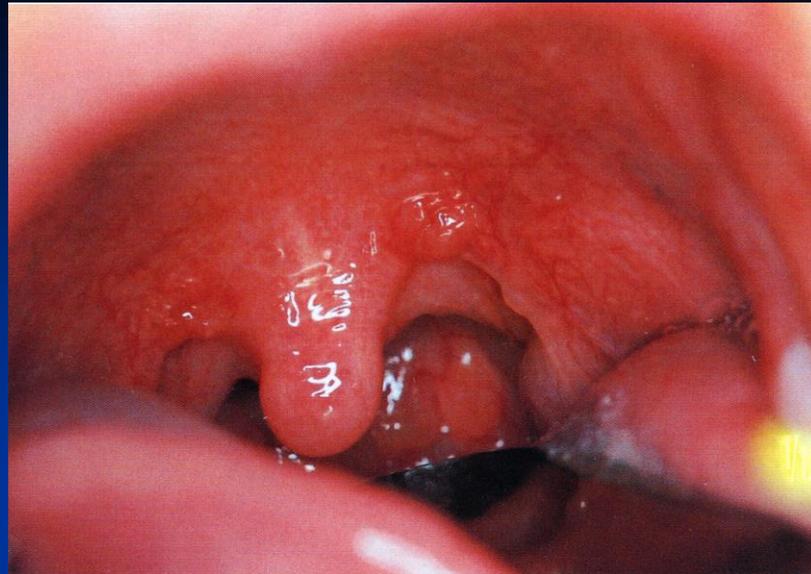
SAFV2 35例の診断名（胃腸炎の合併の有無）



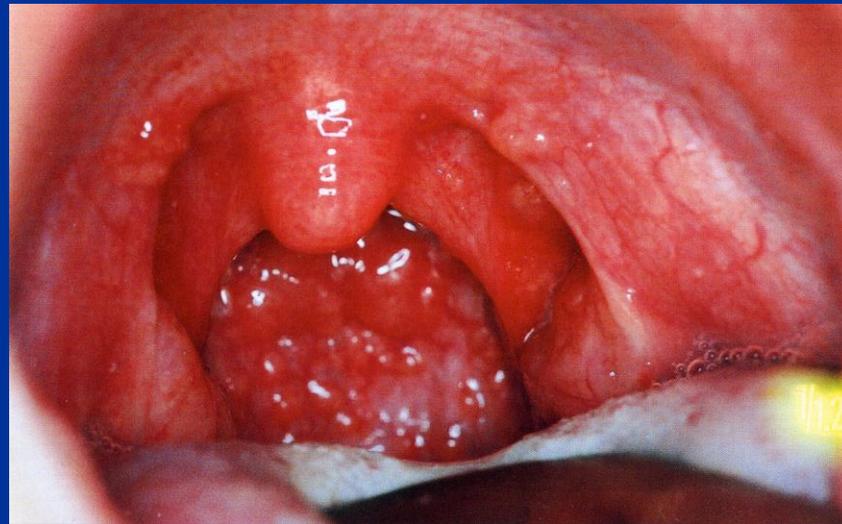
(咽頭所見は佐久間孝久先生のアトラス佐久間による分類)

アンギーナ様変化

口蓋垂周囲に単発性隆起性病変



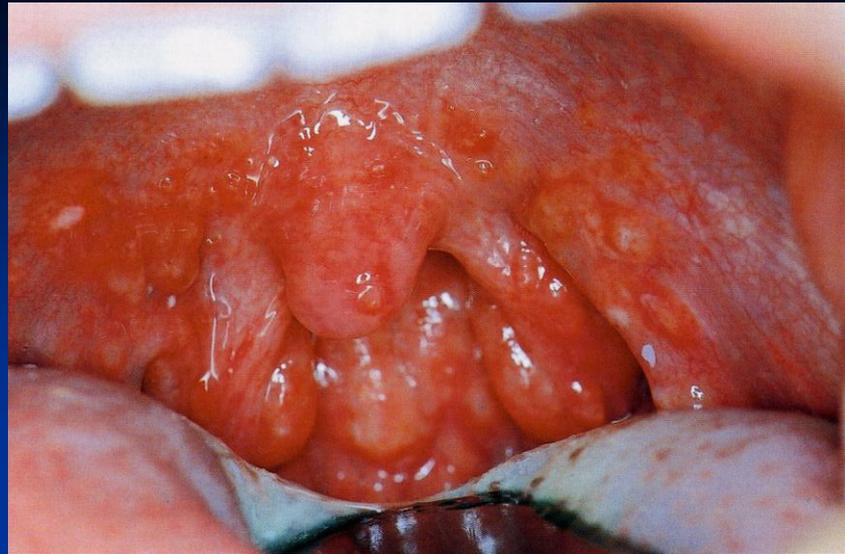
Coxsackievirus B2; 1.6 year, Female, Day6



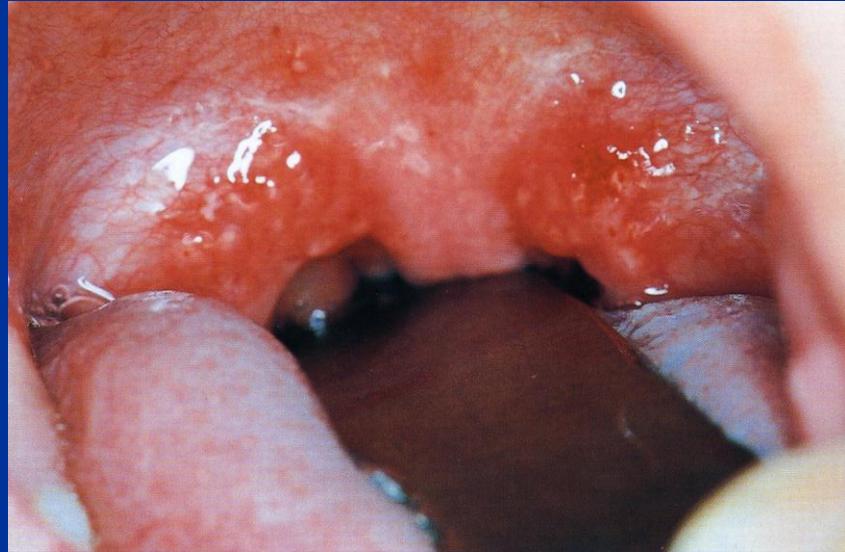
Coxsackievirus B3; 1.9 year, Male, herpangina

ヘルパンギーナ

軟口蓋に多数の隆起性病変



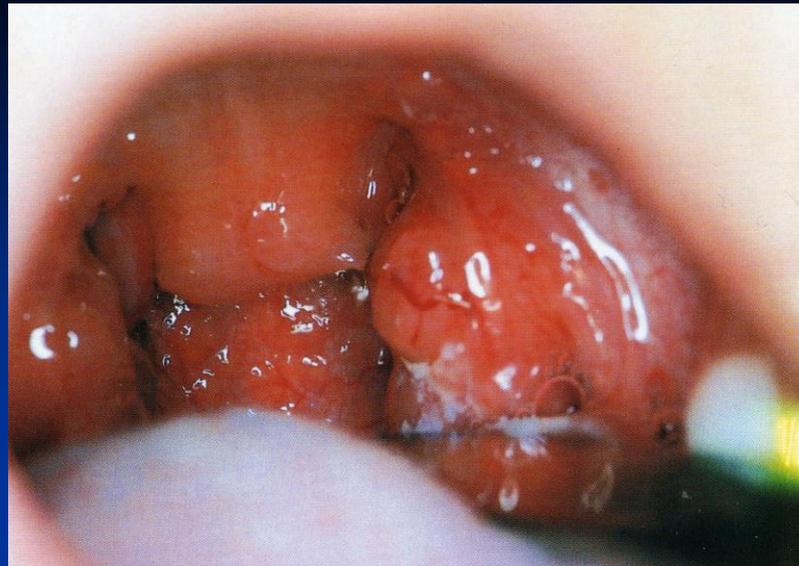
Coxsackievirus A10; 4.2 year, Male, Herpangina



Coxsackievirus A10; 2.3 year, Female, Herpangina

滲出性扁桃炎

扁桃に滲出物

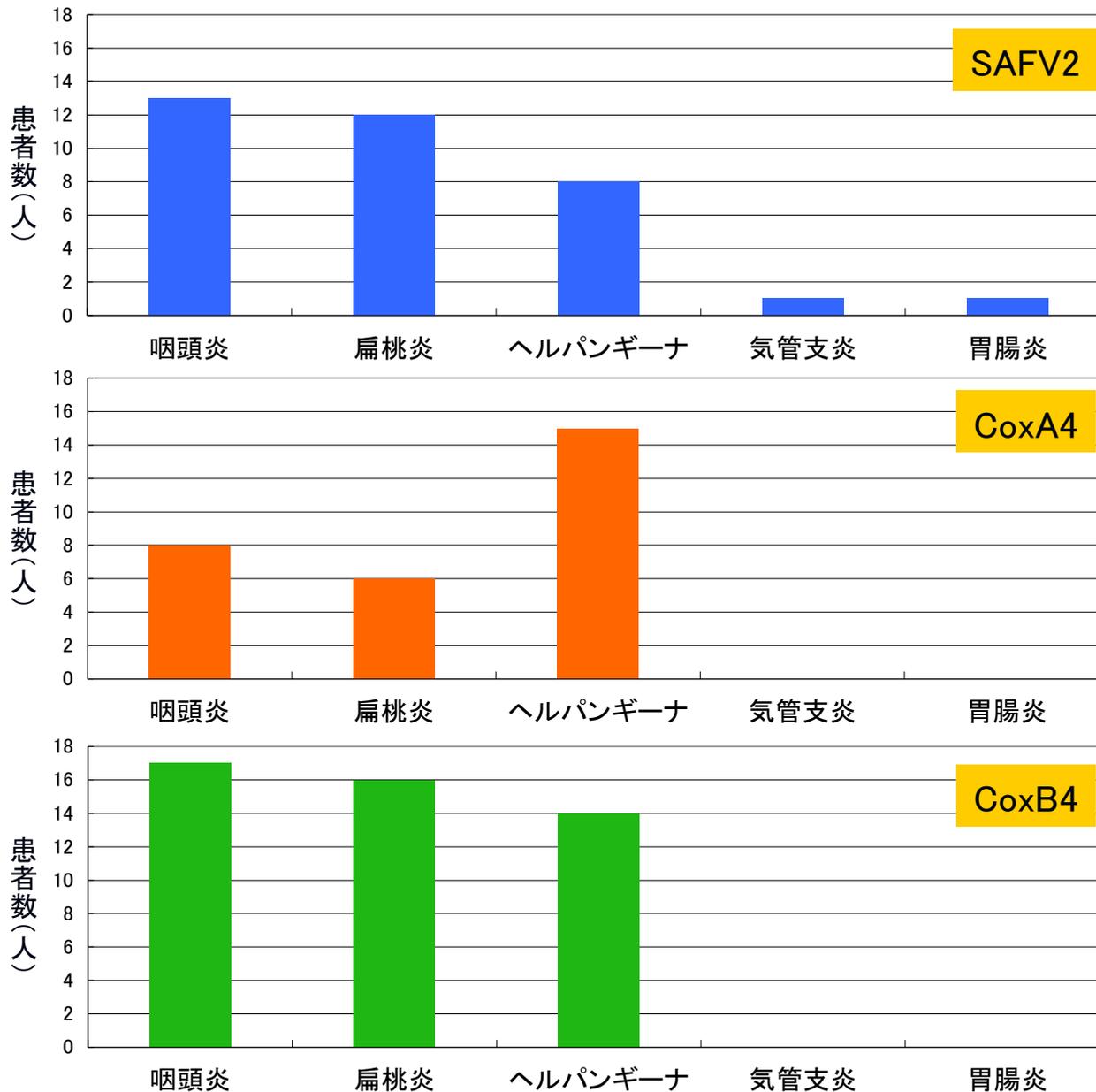


Coxsackievirus B5; 2 year, Male,



Coxsackievirus B5; 9 months, Male, Day2

SAFV2、CoxA4、CoxB4の診断名の比較



まとめ

- ①SAFV genotype-2の地域的流行を認めた
(2009年8月~11月)
- ②臨床症状はコクサッキーウイルスに類似
気道感染症のひとつと考えられる
- ③感染経路
飛沫・接触感染、糞口感染の可能性
- ④児の発症から5日後に母親が類似した症状を
呈した家族内感染例を経験した